

広
報

天使びょういん



T E N S H I - H O S P I T A L



タイトル：「今年は戌年」 撮影：天使病院のある医師



INDEX

- p2-3 Scope「ドクターズクラーク」
- p4 Inside hospital「眼科」
- p5 特集「地域のきずな」
- p6 シリーズ「天使病院の天使たち」
- p7 健康レシピ「がん予防のレシピ」
- p8 お知らせ



ドクターズクラーク

~Doctor's Clerk~

みなさんは「ドクターズクラーク」をご存知ですか？

正式には「医師事務作業補助者」という名称で、2008年に病院勤務医の業務負担軽減策の一環と役割分担の推進のため導入されました。天使病院でも2010年に導入。現在、20～50代の幅広い年齢層のドクターズクラーク17名が診療情報管理課に在籍し、病棟や外来で医師について業務にあたっています。今回は、この比較的新しい職種「ドクターズクラーク」の仕事について、業務内容の解説とともに、そのやりがいや魅力について語っていただきました。

Doctor's Clerk



インタビューアー
K: 菅野 (管理栄養士)



インタビューアー
M: 宗廣 (理学療法士)



Ka: 笠嶋
(ドクターズクラーク)



A: 秋山
(ドクターズクラーク)



Ma: 榎田
(ドクターズクラーク)

K: ドクターズクラークとは？

Ka: 天使病院では通称「ドクターズクラーク」と呼んでいますが、病院によってメディカルアシスタントや医療クラークなど様々な呼び方をされています。具体的には、診断書をはじめとする医療文書の作成や外来診療記録の電子カルテへの代行入力、患者さんの退院時要約(入院から退院まで経過のまとめ)の作成などです。これはほんの一例で、実は挙げればきりがないのですが、医師の本来業務である診療以外の事務的な作業を補助することが私たちの役割なのです。

M: 「資格」が必要なのですか？

A: 資格がなくても、ドクターズクラークとして働くことは可能です。天使病院では、より高い技術を身につけてもらうために、一般財団法人日本医療教育財団の「医師事務作業補助者技能認定」資格を推奨し、全員がその資格を取得するようにしています。受験資格は、専門学校の卒業、または32時間以上の基礎知識習得の研修及び半年間の医療機関での実務経験とされています。



Ka: 医師と正確に意思疎通ができるようになるためには高度なスキルが要求されますので、資格を取ったからといってすぐに円滑にできるわけではありませんが、医療用語を覚え、現場での実践を通して多くの経験を積むことで培われていきます。きっと私たちは病院内で一番たくさんカルテを見ていると思いますよ。

K: ドクターズクラークとして働きたいと思ったきっかけを教えてください。

Ma: 姉が看護師を目指していたこともあり、医療関係の仕事に興味を持ちました。最初は医療事務の専門学校に行き、そこで医師事務作業補助者という仕事を知り、「医師のサポートができるなら」と思ったのがきっかけです。

A: 元々医療事務員として働いていて、何か資格が取りたいと思っていた時に医師事務作業補助者の資格の存在を知り、ちょうどテレビ番組で特集を見た影響もあり、資格取得に取り組みました。

Ka: 病棟で医療事務員として働いていた時、同僚の看護師からこの資格を勧められ、資格取得したことがきっかけです。

K: ご家族や同僚、テレビなど、皆さん周りからの勧めや影響を受けたことがきっかけになったのですね。

M: 仕事のやりがいは？

Ka: 今、この仕事を天職だと思っています。ドクターズクラークは、医師が行う書類作成や入力などの事務的な仕事の代行・補助を行うので、正確かつスピーディな事務作業スキルが求められます。スキルを身につけるとスムーズに処理ができるようになり、仕事が楽しくなってきます。

Ma: 診療科毎に専門的な知識が必要なので大変なことは多いです。ただ、医師から私たちの存在が「必要不可欠だ」と言ってもらえるととても嬉しく、やりがいを感じますね。



Ka: 患者さんと直接接する機会もあります。同意書を作成する時や診断書の希望記載内容の確認を行う時などが多いですが、生命保険の書類も、私たちがお手伝いさせてもらっています。以前は申請から完成まで1カ月ぐらいかかっていましたが、現在は10日前後でお渡しできるようになりました。また、外来にもドクターズクラークが導入され、以前に比べて診察までにお待たせする時間を短縮できるようになりました。そういう仕事の成果を実感できることもやりがいにつながっています。

K: 仕事をする上で気を付けていることは何ですか？

A: 迅速・正確に業務を行うために、医師とのコミュニケーションを大切にしています。医療文書は医師に最終確認してもらうこともとても重要です。ごくわずかな隙間の時間を大切にして、多忙な医師と綿密な連携をとることを心掛けています。

Ka: 専門性を求められる仕事なので、課内で定期的に勉強会を行ったり、月1回のミーティングや院内勉強会への参加を通してスキルアップを図っています。

K: これからの目標を教えてください。

Ka: 私たちは医師との信頼関係の中で最高のパフォーマンスを発揮してこれたと感じています。これからのドクターズクラークは、1人1人の知識・スキルを高めることはもちろん、チームとしての対応力を高めていくことが目標です。医師とのコミュニケーションの中で課題を見つけ、解決することで、今よりももっと「縁の下の底力」を発揮したいと思います。それは医師への助けになるだけでなく、きっと患者さんたちのお役にも立てることだと私たちは信じています。今後ともドクターズクラークをよろしく願いいたします。



Doctor's Clerk

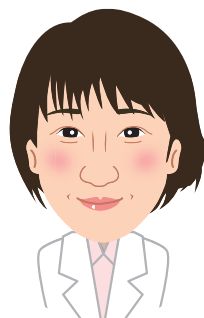
当科は常勤医2名、視能訓練士2名、看護師2名の体制で診療を行っています。

外来では白内障、緑内障、糖尿病網膜症はじめ一般的な疾患の診療や、各種レーザー治療ほか、加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫などに対する抗VEGF療法(硝子体内注射)も行っています。また乳児検診後精密検査の指定病院となっているため小児の患者さんも多いのが特徴です。視力や斜視等は視能訓練士が丁

寧に検査し、月1回札幌医大より小児眼科の専門医師に来ていただき斜視弱視専門外来(完全予約制)として対応しています。

手術は短期入院での白内障を中心として行っています。内科的な合併症がありクリニックでは対応が難しい患者さんをご紹介いただくことも多く、その場合は他科に協力をいただきながら治療を進めるなど、院内外との連携もとても充実しています。

ナビゲーター



眼科主任科長 曾根 昭子先生 (Sone Akiko)

■経歴：旭川医科大学卒業後、防衛医科大学校、札幌医科大学を経て、2005年より天使病院 眼科科長(現在 主任科長)

■資格：日本眼科学会 専門医/日本網膜硝子体学会 PDT認定医

■専門：眼科一般、網膜(糖尿病網膜症、加齢黄斑変性)など

眼科一般について診療を行っていますが、専門外の手術については大学病院などご紹介させていただきます。網膜の病気では蛍光眼底造影や光干渉断層計(本誌Vol.38でご紹介)などの検査をし、その画像診断の結果をもとに加齢黄斑変性、糖尿病網膜症などのレーザー治療、抗VEGF療法などの治療を行っています。

■得意なことやメッセージなど

学生時代はスキー部に所属しアルペン競技をしていました。仕事をはじめてからはあまり時間がなくてできませんが、スポーツ観戦も大好きなのでこの冬のオリンピックは楽しく拝見していました。今後も仕事を続ける上でも体力維持は大事と考え少し運動を始めようと思っています。

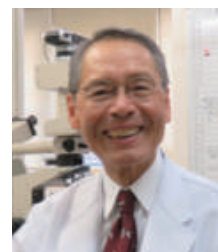
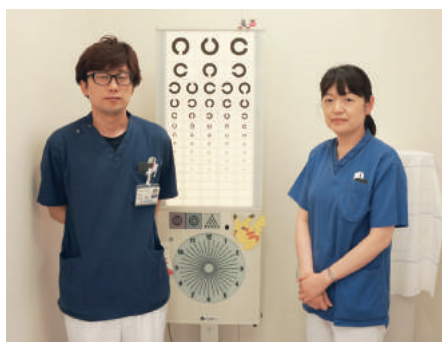
また快適にものを見ることは毎日を生きる上でとても大切なことと考えます。眼のことでお困りのことがあればぜひ気軽に相談してください。

■曾根先生ってこんな人 (眼科外来スタッフより)

曾根昭子先生は、優しく笑顔が素敵な先生です。

患者さんに対しての説明も丁寧で、特に小さいお子さんの扱いも上手です。またスタッフに対しても困った時はいつも相談に乗ってくださり、真摯に接してくれます。スタッフからの信頼も厚く、頼りになる先生です。

目の事で気になることがあれば、ぜひ一度外来に受診してみてください!



こばやし ひとし
院長 小林 仁 先生

Profile

広島県出身、北海道大学医学部卒業(昭和51年)。皮膚科専門医。

山登りとスキーは長年の趣味。時間を見つけては奥様(8・3プラザ診療室 院長)とご一緒に山登りをされているそう。若さと健康の秘訣はきっとそこにあり!

Q. 小林皮膚科クリニックについてご紹介ください。

長い大学病院での経験を実地医療へ活かしたいと思い、平成12年に開業しました。今年で18年目になります。その後、平成19年に8・3プラザ診療室を開業しました。開業したばかりの頃は戸惑うことがたくさんありましたね。診る病気や治療の違い、当然、患者さんとの関わり方もです。「病気の診断をすること」で患者さんとの関係性を築いていた大学病院との違いを実感したものです。知識だけでは決して満足いただけないなど。もっと患者さんに寄り添うこと、長いおつきあいの中で信頼関係を築いていこうと思いました。

Q. 心がけていらっしゃることは?

開業当時から変わらず「皮膚をとおした全人的な医療」です。皮膚のトラブルによる精神面、社会面での影響を見逃さず、皮膚表面の変化だけでなく精神的な苦痛にも目を向けた医療を患者さんとともに考えていくことです。慢性疾患の場合、治すことが難しいことも多くあります。そんな時、「症状を緩和することよりも患者さんの「QOLを高める」方法を考えることを大切にしますし、それが役割だと思っています。患者さんとの間に築かれる絆、信頼関係、愛情を支えとして、寄り添う医療を目指しています。そのためには、私自身が健康であること

もとても重要です。だから山登り(趣味)は欠かせません(笑)。

Q. 乾癬の会(北海道)とは?

乾癬の患者さん同士の交流や正しい知識を広めることを目的に北海道で設立されました。今では全国連合会となるまでに活動の輪が広がっています。活動内容は、年1回の豊富温泉湯治ツアーと年4回の学習懇談会の開催など。平成5年に始まった豊富温泉湯治ツアーも、昨年10月には25回目となりました。25周年を迎え、患者さんからたくさんの感激のコメントを寄せていただき、そのことに私自身も感激しました。これからもみなさんと一緒に活動を続けていきたいと思っています。

Q. 将来の夢や目標をお聞かせください。

夢は…憧れのマッターホルンの登頂です。今夏、チャレンジしたいと思っています。

Q. 天使病院との連携についてご要望などあればお聞かせください。

往診にもよく行かせていただいています。これからも、遠慮なくご紹介(orご依頼)ください。天使病院の産婦人科、小児科のブランドをいつまでも大切に。今後ともよろしく願いいたします。

所在地:〒060-0007
札幌市中央区北7条西4丁目 宮澤鋼業ビル2F

ホームページ: <http://kobayashi-skin-clinic.com>

電話: 011-738-5511

診療科目: 皮膚科

休診日: 水曜日、土曜日午後、日曜日、祝日

診療時間

外来受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00~13:00	●	●	●	●	●	●
15:00~18:00	●	●	●	●	●	●



天使病院の天使たち!

今回は認定看護師に新しい仲間が増えましたのでご紹介します。



寺部 美香 (感染管理 認定看護師)

感染管理は、患者さん、ご家族などのご来院者の皆様や病院で働くすべての職員を病院感染から守る組織的な活動です。その中で感染管理認定看護師の役割は、さまざまな職種と共に、病院感染の予防と管理を行います。感染管理認定看護師



ICT (感染対策チーム) 会議の様子

となり、その役割の重要性と責任の重さを感じていますが、天使病院を訪れるすべての皆様に、清潔で安心できる医療と環境を提供できるよう活動しています。



塩見 祐子 (小児救急 認定看護師)

小児救急看護認定看護師の役割には、受診されたお子さんの状態を見て緊急度を実に判断し対応することや、家庭における初期対応の指導などがあります。さらに具合が悪い時だけでなく、子どもを育てる上で不安や困っていることがあるご家族に対し、適切な判断方法の指導も行います。その際には、子どもの権利やご家族の思いを大切にしながら、子どもの健やかな成長発達のために、ご家族を含めた総合的な支援となる看護を提供します。



大澤 三季 (皮膚・排泄 認定看護師)

皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷・ストーマ・失禁のある方へスキンケアを中心に専門的なケアを提供します。在宅療養や社会復帰に向け患者さんとそのご家族が安心して生活できるよう、褥瘡



認定看護師勉強会の様子

の治療や予防ケア、ストーマ造設後のセルフケア指導を行っています。実践のほかスタッフへの指導・教育を通し、ケアの質の向上を目指しています。患者さんの生活を見据えたより良いケアの検討に日々苦戦していますが、様々な症例を経験し更なるスキルアップを目指していきたいと思ひます。

新しい“天使たち”が仲間入りしました!

今年度も17名の看護師が天使病院に入職しました! 初日のオリエンテーションでは、それぞれが凛々しい顔つきで臨んでいました。 “天使たち”は数ヶ月間のトレーニングを経て、看護師としての一歩を踏み出します!



平成30年度科令交付式

気になる栄養素を
おいしくとり入れる

セレンをおいしく補給 がんを予防する食事 レシピ



たんぱく質 26.4g 脂質 18.7g
塩分 2.8g 食物繊維 6.6g
セレン 83μg

ゆずパスタ/サバと野菜の焼き漬け
わかめのカルパッチョ/牛乳寒

1食あたり

522kcal



Comment

平成30年度は「がんを予防する食事」と題して、欠かせない栄養素をおいしく補給する料理を紹介しました。第1回目は、肺がんの発生予防に効果が期待される微量栄養素「セレン」をとりあげました。セレンは、主に体内の酸化を防止する作用を持ち、抗酸化酵素の活性化を助けてがんや動脈硬化の予防に役立ちます。がんや動脈硬化の原因となる過酸化脂質は、体内で不飽和脂肪酸の酸化によって作られ、この酸化を防止するのにセレンが必要です。成人男性の1日の推奨量は30μg、成人女性は25μgで、セレン含有量の高い食品は魚介類です。植物性食品と畜産物のセレン含有量は、それぞれ土壌と飼料中のセレン含有量に依存して変動しています。セレンの耐用上限量は、成人男性400~460μg、成人女性330~350μgで、毛髪や爪の脆弱化や脱落など慢性セレン中毒として高頻度にみられるためサプリメントの過剰摂取は控えます。セレンは、がんのうち肺がんの発生に有益な可能性が示されていて、セレン含有量の高い食品は魚介類以外には、野菜全般、海藻類、しいたけなどです。 *1μg(マイクログラム)=百万分の1グラム (管理栄養士 伊藤詩織)

ゆずパスタ

たんぱく質 7.7g 脂質 4.9g
塩分 1.4g 食物繊維 2.9g
セレン 39μg

1人分
243kcal

【材料(1人分)】

・スパゲティ(茹) 120g ・塩 0.6g
・オリーブ油 3g ・しらす干し 2g
・水菜 30g ・オリーブ油 0.8g
・ゆず(果汁) 3g ・ゆず(皮) 0.4g

【作り方】

- ①フライパンにオリーブ油を中火で熱し、しらす干しを入れてきつね色になるまで炒めたら、キッチンペーパーにとる。
- ②スパゲティは袋の表示通りに茹でて、湯をきっておく。
- ③ボールに②と2cmの長さに切った水菜を入れてざっと和え、オリーブ油、ゆず果汁を加えて混ぜ合わせる。
- ④①とゆずの皮を加えて混ぜ、塩で味を調えて器に盛る。

サバと野菜の焼き漬け

たんぱく質 15.0g 脂質 10.3g
塩分 0.9g 食物繊維 1.5g
セレン 43μg

1人分
195kcal

【材料(1人分)】

・サバ 60g ・減塩醤油 6g
・レンコン 20g ・みりん 3g
・長葱 40g ・酒 1.5g
・だし汁 240g

【作り方】

- ①レンコンは皮をむいて1cm厚さの輪切りにする。長葱は5cm長さに切る。
- ②鍋にだし汁、減塩醤油、みりん、酒を入れて煮立て、火を消して冷めるまでおき、ファスナーつきポリ袋に入れる。
- ③グリルにサバと①を並べ入れ、中火で両面を焼き色がつくまで8~10分焼き、火を通す。
- ④③が熱いうちに②のポリ袋に入れ、漬け汁をからめる。空気を抜いて袋の口を閉じさめるまでおいて味を含ませる。器に盛り合わせ、漬け汁をまわしかける。

わかめのカルパッチョ

たんぱく質 2.4g 脂質 2.0g
塩分 0.5g 食物繊維 2.2g
セレン 0μg

1人分
38kcal

【材料(1人分)】

・カットわかめ 0.4g ・黒こしょう 0.02g
・菜の花(冷凍) 40g ・ポッカレモン 4g
・ラディッシュ 20g ・オリーブ油 2g
・塩 0.4g ・黄ブチトマト 15g

【作り方】

- ①カットわかめを水でもどす。
- ②ラディッシュは薄くスライスする。
- ③ブチトマトは4等分に切る。
- ④塩、黒こしょう、ポッカレモン、オリーブ油を混ぜてソースを作る。
- ⑤皿に①、菜の花、②、③を飾り、④のソースをかける。

牛乳寒

たんぱく質 1.3g 脂質 1.5g
塩分 0g 食物繊維 0g
セレン 1μg

1人分
46kcal

【材料(1人分)】

・粉寒天 1g ・砂糖 5g
・牛乳 40g ・ラカント 15g
・水 60g

【作り方】

- ①鍋に水と粉寒天を入れてかきまぜ、火にかける。
- ②沸騰したら弱火にし、1~2分ほど静かに混ぜながら煮る。
- ③寒天が溶けたのを確認してから、砂糖とラカントを加えて溶かし、火を止める。
- ④常温にもどした牛乳をゆっくり加え、よく混ぜる。
- ⑤水をぬらした容器に④を流しこみ、冷やし固める。

POINT

計量スプーンによる調味料の目安重量

食品名	小さじ(5ml)	大さじ(15ml)
塩、減塩醤油、みりん	6g	18g
ポッカレモン、酒、牛乳、水	5g	15g
オリーブ油	4g	12g
さとう	3g	9g
黒こしょう、粉寒天	2g	6g

*メニュー&調理協力：エームサービス株式会社



三好宏樹さん スキー世界選手権大会で金メダル!

ポーランドで開催されたINAS 知的障害者スキー世界選手権大会(2月25日～3月2日)で、三好宏樹さんが金メダルと銀メダル2個を見事獲得されました。ずっしりと重い3つのメダルを持って喜びの報告に来てくれました。

今年からできたダウン症のカテゴリーにフランスの選手と三好さんの2名が出場。回転と大回転での2つの銀メダルの後、最後のスーパー大回転で見事に優勝。念願の金メダルを胸に表彰台の一番高い所で聞いた国歌は格別だったそうです。スキーを始めたきっかけは小学校1年生の冬、スキースクールに入ったことだそうで、それからどんどん上達して、とうとう世界選手権大会で金メダル!好きなことを一生懸命続けて、最高の結果に結びつくなんて本当にすごいですね。おめでとうございます。

ずっしりと重いメダルと晴れやかな三好さんの笑顔に、つつい私たちにはしゃいでしまいました。

来年は3冠をめざして頑張ってください!

3個もメダルを首からかかた三好さんに会うことができ、私もパワーをもらいました。これからも応援しています
(小児科外来看護師 小杉より)



「MCIスクリーニング検査」はじめました

アルツハイマー型認知症を発症前に予防するために

2025年、65歳以上の高齢者のうち認知症の人は約700万人(5人に1人)に増加すると予測されています。この検査は、認知症の中でも最も多いアルツハイマー型認知症の前段階であるMCI(軽度認知症)のリスクをはかる血液検査です。発症後の治療よりも発症前の予防をしませんか。

対象は50歳以上。最近、もの忘れが増えてきた方、肥満や糖尿病、高血圧症、脂質異常症など生活習慣病がある方、親や家族の様子が少し変わった気がするという方におすすめしています。

- 内容：血液検査および医師の診察
- 時間：約30分
- 結果：後日郵送(2～3週間後)
- 費用：23,000円(税別)

お問合せ、ご予約は健診センターまで
TEL 011-214-1553(直通)
詳しくは当院ホームページをご覧ください

✿ 糖尿病予防教室(基本毎月第3水曜日 14:00～15:00)

本教室は、糖尿病の患者さんとそのご家族だけではなく、糖尿病に関心のある全ての方を対象とした教室です。予約は必要ありません。どうぞお気軽にご参加下さい。

※(料理教室)事前の申し込みが必要です

日程	時間	テーマ	担当者
4月18日(水)	14:00～14:30	糖尿病と合併症	糖尿病内科医師 高階 知紗
	14:30～15:00	糖尿病と腎症	糖尿病内科医師 吉田 和博
5月16日(水)	14:00～14:30	糖尿病とたばこ	外来看護師 森山由希子
	14:30～15:00	外食のメニュー	管理栄養士

6月以降の予定は決まり次第ホームページでお知らせします。

<天使ホールC>



広報誌 「天使びょういん」第48号
発行日 平成30年4月15日
発行人 院長 藤井ひとみ
編集 「天使びょういん」編集委員会

編集後記

新年度がスタートしました。4月は新しい仲間も加わる楽しい時期です。同時に先輩として身の引き締まる思いもしています。三好宏樹さんのように目的に向かって頑張る姿に大いに刺激を受け、私たちも皆さんに頼られる存在になるという目標に向かって頑張ります。

